

1	名古屋	万場小学校	ハマサキ ユズル 濱崎 譲
分科会番号	1	分科会名	国語教育（文学その他）

個別のペースで読みながら、根拠に基づいて考えを形成できる児童の育成（小6年）
—教師の観察と支援に着目した説明的な文章の学習を通して—

1 説明文を読む力を付けるために

私は、「子ども中心の学び」の実現に向け、個別のペースで読み進める説明的な文章の実践を積み重ねてきた。これまでの実践では、「学習の手引き」や「学習計画表」などを用いて、児童の個別のペースでの学習を支えてきた。しかし、説明文を読む力が思うように身に付いていないという課題があった。

そこで、本研究では、ブレンディッドラーニング（動画教材と対面学習のハイブリット型学習）とピアラーニングの考え方に注目した。児童は、自分のペースで、動画から説明文の読み方を学習し、必要に応じて仲間と対話をしながら学習課題を解決していく。教師は、児童の学習状況を、学習の様子や振り返りカードから見取り、必要に応じて助言や発問などの支援を行う。このような学習環境を整えることで、個別に説明文を読み進める中であっても、説明文を読む力を付けることができると考えた。

2 実践計画

- (1) 対象 第6学年28人
- (2) 個別の学習を支える手だて

① ミニレッスン【資料1】

学習指導要領に示された指導内容を踏まえたレッスン内容を動画にし、子どもが自分の視聴タイミングや視聴方法（リピートや早送りなど）を自己選択・自己決定できるようにする。

ミニレッスンは、「キーワードをみつけよう」「事実と意見を読み分けよう」「説得力のある文章構成とは」といったテーマで3種類の内容理解を助ける解説動画を児童用タブレット型PCから視聴できるように準備する。

事実…本当にあったことや、だれでも確かめられること

意見…書き手の考えたこと、確かめることができないこと

① 信濃川は日本一長い川だ。

② 私は、弟はやさしい子だと思っ。

③ 彼はきつとがをにしているに違いない。

構成パターンの見わけ方

段落番号をつけよう

はじめの段落
終わりの段落
に注目する

「キーワード」

文章を理解する上で重要な言葉

筆者の主張を理解する上で役に立つ

キーワードの見つけ方

文章の中でよく使われている言葉に着目する

【資料1 ミニレッスンで用意した3種類の解説動画】

② 学び合い

児童の学習状況に応じて、児童が、文章構成を捉えたり、筆者の説明の工夫を捉えたりできるように、次のような学び合いを行う。

・ 足場づくりの学び合い

主に学習活動の序盤から中盤にかけて行う学び合い。学習の習熟度が低い児童Aと、学習の習熟度が高い児童Bとを組み合わせる。児童Aの質問に対して児童Bが応答する形で、児童Aの理解度を高めるための足場をつくる。

・ 互恵的な協同を生み出す学び合い

主に学習活動の終盤に行う学び合い。ある程度、習熟度が高まった児童同士で、互いの考えを交流し、評価し合うことで、互いに考えを広げたり深めたりする互恵的な協同を生み出す。

3 授業実践の様子

【授業実践①】 単元：「主張と事例の関係をとらえ、自分の考えを伝え合おう」（6月）
教材：『時計の時間と心の時間』

(1) 実践の様子

まず、児童に以下の五つの課題を提示し、学習後の評価テストの問題でもあることを伝え、見通しをもって教材の読み取り学習ができるようにした【資料2】。

課題① 筆者は、どんな「時間」を、「時計の時間」「心の時間」とよんでいるか。

課題② 筆者の主張は、どの段落で述べられているか。

課題③ 「心の時間」の特性はいくつあり、どんな事例を挙げて説明されているか。

課題④ 筆者は、なぜ複数の事例を挙げながら、「心の時間」の特性について説明したのだろうか。筆者の主張との関係に着目して、その意図について考えよう。

課題⑤ 筆者の主張に対して、あなたはどのように考えただろうか。共感・なっとくしたり、疑問に思ったりしたことを、自分の経験をふまえてまとめよう。

【資料2 中心教材の学習課題】

課題解決に向けて、個別のペースで学習に取り組むよう伝えた。その際、学習を進める上でのポイントとして、以下の2点を指導した。

1 ミニレッスンについて

内容理解を助ける解説動画（キーワード、文章構成、主張と事例）を必要に応じてタブレット型PCで視聴すること。

2 学び合いについて

自力で課題を解き進める段階では、分からない点を教え合う「助け合い」を、全員が一通り課題を終えた後は、より深い考えを目指して意見を交換する「高め合い」を意識すること。

教師の指導後、学習の主導権を児童に渡し、5時間の自由進度による中心教材の読み取り学習が始まった。

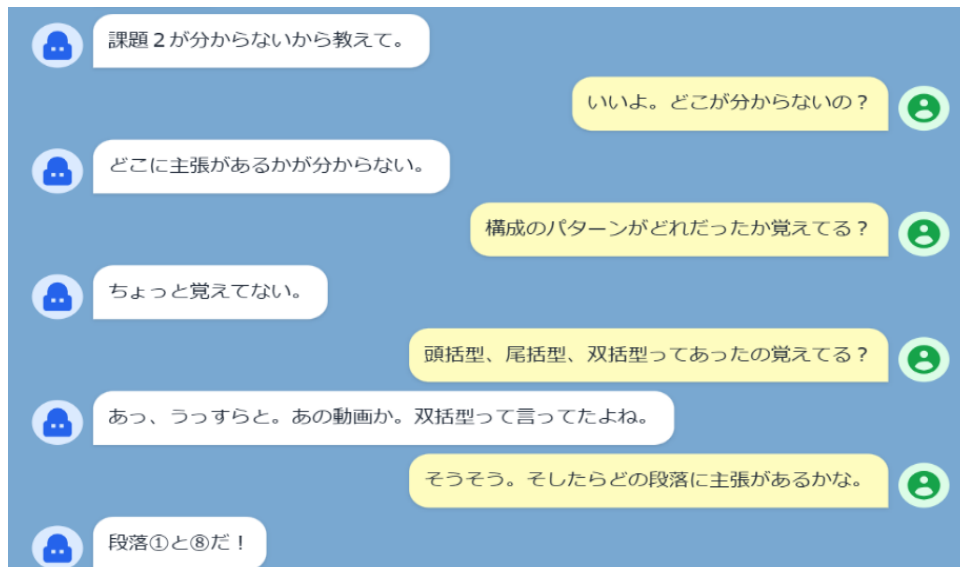
① ミニレッスン

多くの児童は、まずタブレット型PCで、ミニレッスンの動画を視聴することから始めていた。動画のレッスン内容を手掛かりにして、児童は文章中からキーワードや筆者の主張を見付けていた。「心の時間が重要なキーワードだ」「初めの段落と終わりの段落に、心の時間について知ることが大切って主張があるよ」といったつぶやきがあり、課題を解決する姿が見られた。

一方で、動画視聴を学習活動につなげることができない児童がいた。そうした児童には、教師が「心の時間という言葉は何回出てきたかな」「段落に番号を振って、構成を考えてみようか」といった具体的な学習活動を促す個別支援を行った。教師の支援をきっかけに、児童がミニレッスンの動画内容を思い返し、「文章構成のミニレッスンで学んだ双括型は、筆者の主張を問う課題②を解くのに役に立つんだ」と気付くことができた。

② 学び合い

学習も第3時に入ると、ミニレッスンを視聴して課題を解決するだけでなく、他の児童と足場づくりの学び合いをする児童が見られるようになっていた。【資料3】は、課題②について足場づくりの学び合いでの児童Aと児童Bの発言である。



【資料3 児童Aと児童Bの足場づくりの学び合いの発言】

学び合いでは、児童Bがミニレッスンの動画だけでは分からなかったことを質問している。また、児童Aは、最初から答えを伝えるだけでなく、児童Bが答えを導き出すまでの足場づくりの助言ができていた発言が見られた。

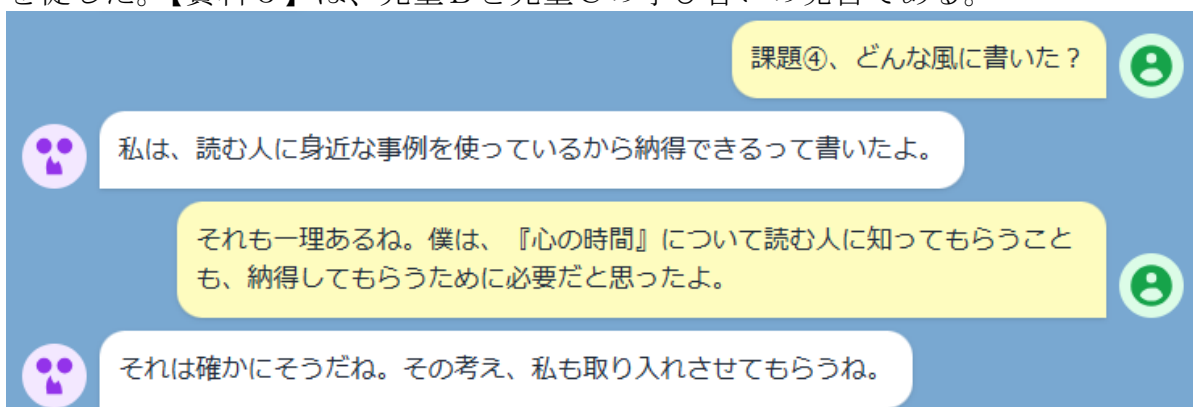
その一方で、分からない点を質問できない児童が6人いた。そこで、そのような児童に対しては教師が積極的に児童間の学び合いを仲介したり、思考を促すヒントを与えたりした【資料4】。そうすることで、分からない点を質問できなかった児童も、足場づくりの学び合いによる学習を進めることができた。

学び合いの仲介…〇〇さんがさっき上手に考えていたよ。一緒に聞きに行ってみようか。
思考を促すヒント…動画では、この文章構成は何型って言ってたかな？一緒に探してみようか。



【資料4 足場づくりの学び合いでの教師の支援】

学習の第5時になると、課題④「筆者の文章構成の意図を探る」、課題⑤「筆者の主張に対する自分の考えをまとめる」ことに着手する児童が多くなった。「事例を書くことで、主張に納得できる」「ゲームの話に納得できた」といった、十分に考えが深まっていない記述が見られた。そこで、教師が「高め合いの関わりができていかな。一通り課題が解決できた人同士で、互いの考えを伝え合って、もっとよりよい課題解決ができるといいですね」と児童に話し、互惠的協同を生み出す学び合いを促した。【資料5】は、児童Bと児童Cの学び合いの発言である。



【資料5 児童Bと児童Cの互惠的な協同を生み出す学び合いの発言】

(2) 成果と課題

評価テストの正答率から、ミニレッスンと学び合いの手立ては、正答率が高い課題①と課題②の解決に向けては有効であったが、課題③～課題⑤の解決に向けては有効に働かなかったという結果になった。

有効に働かなかった要因と改善策としては、以下の点が挙げられる。

- ミニレッスンでは、解説動画を視聴したら解決できる課題①と課題②については児童の課題解決につながる事ができたが、解説動画を自分なりに解釈して取り組む必要のある課題③～課題⑥については、児童の課題解決に至らなかった。

ミニレッスンの解説動画は、それぞれの課題解決につながるように意図した動画構成にする必要がある。

- 学び合いでは、課題解決が思うように進まなかった4人の児童は、足場づくりをすることで精一杯で、課題④、課題⑤の解決に必要な互恵的協同を生み出す学び合いに進むことができなかった。

そこで、それらの児童が主体的に学習を進めていくことができるように、教師の個別支援の方法を考える必要がある。

【授業実践②】「筆者の工夫をとらえて読み、それを生かして書こう」（12月）
教材：『「鳥獣戯画」を読む』

(1) 手立ての改善

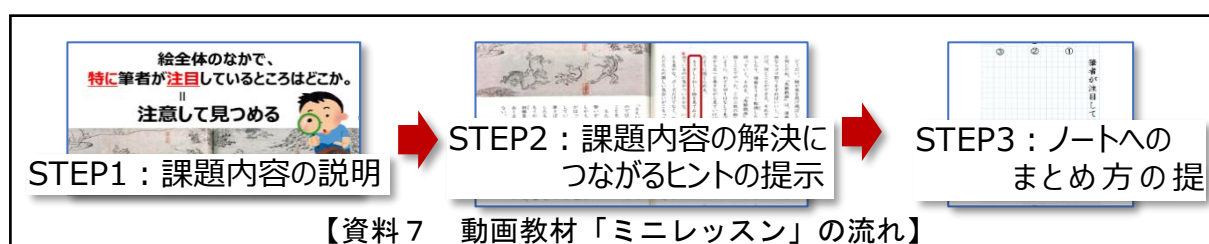
授業実践②では、コーチングの考え方を取り入れて、二つの手立てを強化する。課題解決が進んでいない児童に対しては、自走して学習を進めていけるようにするために、「話を聞いて学習状況を把握→できている部分を認め意欲を向上させる→質問をして、課題解決に向かわせる」というように、傾聴、承認、質問というコーチング理論を活用した教師の個別支援を行う【資料6】。

個別支援の種類	個別支援の具体的な方法
傾 聴	児童の話を「うなずき」「あいづち」「オウム返し」「アイコンタクト」の入った聞き方で聴き、学習状況を把握する。
承 認	できているところや頑張っているところなど事実を伝え、児童の意欲を向上させる。
質 問	「ミニレッスンのポイントはどこだったかな。」「何をしたら、課題を解決できるかな。」と課題解決のヒントになる質問や、「教科書のどこを読んで、そう考えたの。」とより深い思考を促すような質問をする。

【資料6 コーチング理論の傾聴、承認、質問を本実践向けに具体化したもの】

① ミニレッスンの改善

学習課題ごとに教師が解説動画を作成し、【資料7】のようにそれぞれの学習課題の解決につながるように意図し、三つのステップで構成した動画にする。



② 学び合い

授業実践①と同様に、足場づくりと互恵的な協同の観点で、児童の必要に応じて学び合いを行う。

(2) 実践の様子

まず、児童に以下の五つの学習課題を提示し、学習後の評価テストの出題問題でもあることを伝え、見通しをもって読み取り学習ができるようにした。【資料 8】

- 課題① この文章のキーワードは何か。また、文章構成はどのパターンか。
課題② 絵全体のなかで、特に筆者が注目しているところはどこか。
課題③ 特に筆者が注目したところについて、筆者はどのようによいと考えているのか。筆者の評価が書かれている表現を見付けよう。
課題④ 筆者は、自分の評価を読者に伝えるために、どのような工夫をしているだろう。気付いたことを書き出そう（論の展開について、表現の工夫について）。
課題⑤ 文章全体を読み、筆者の工夫のなかで、あなたが特に効果的だと思うのはどんなことだろうか。理由とともにまとめよう。

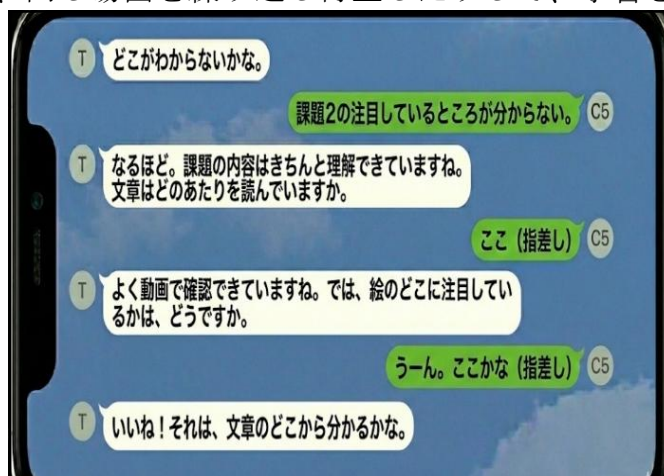
【資料 8 中心教材の学習課題】

教師の指導後、学習の主導権を児童に渡し、5時間の自由進度による中心教材の読み取り学習を行った。

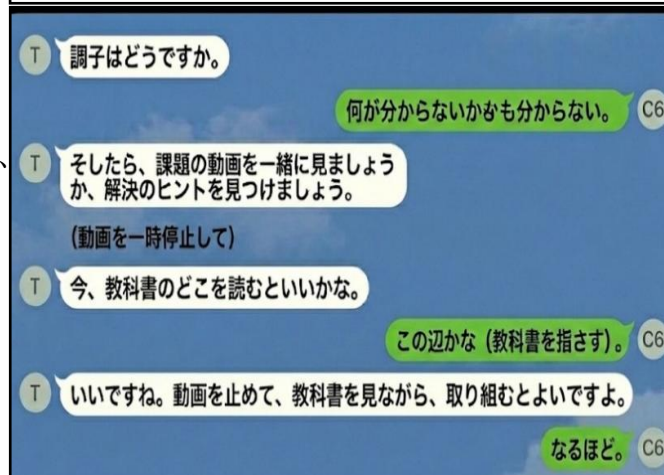
① ミニレッスン

児童は、まず、タブレット型PCでミニレッスンを視聴し、学習課題に取り組み始めた。ミニレッスンを手掛かりに、「文章構成はどのパターンかな。」「この文章のキーワードは何だろう。」と考えを巡らせていた。また、視聴の際には、課題解決のヒントとなる箇所でも一時停止したり、同じ場面を繰り返し再生したりして、学習を進める様子が見られた。

一方で、課題解決が思うように進んでいない児童もいた。【資料 9】は、学習課題②の学習で困っていた児童に対してコーチングを行った際のやり取りである。このように、傾聴して学習状況を把握→できている部分を承認→思考を促す質問を投げ掛けるという流れで、課題の解決へ導いていった。この児童は、その後自力で、筆者が注目している箇所を記述し、学習課題②を解決することができた。そのような児童には、傾聴により学習状況を確認した上で、学習のポイントと一緒に確認するというような、より積極的な支援を行った【資料 10】。この児童は、ミニレッスンを活用して、課題解決のヒントを確認しながら、学習を進めていき、学習方法を教師と一緒に確認した。そうすることで、この児



【資料 9 児童へのコーチングの様子】



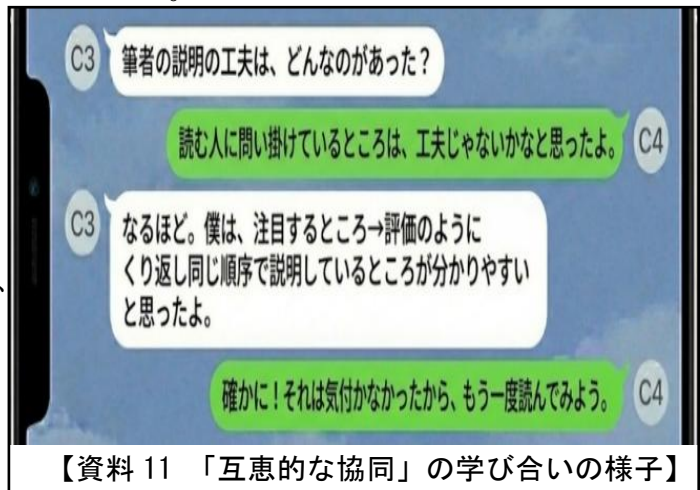
【資料 10 児童と学習方法を確認する様子】

童は、筆者が資料のどこに注目しているかを捉え、学習課題②を解決することができた。この児童は、その後の課題も、ここで学んだ学習方法を生かして、課題の解決に向けて取り組むことができた。

② 学び合い

授業実践①と同様に、学び合いの活動は、活発に行われていた。教える側の児童も、答えを伝えずに、解決のためのヒントを与えようとしている様子であった。児童は、このように、他者と学び合うことで、課題解決のヒントを得て、一人では解決できない学習課題も解決へ導くことができた。

単元の後半になってくると、学習課題④「説明の工夫を考える」や学習課題⑤「説明の工夫の効果を考える」といった課題に着手する児童が増えてきた。自分なりの解答を記述できた児童には、教師が働き掛けて、同じく解答を記述できている児童を組み合わせ、互恵的な協同を促し、考えが深まるように支援した。児童は、【資料 11】のように、互いの考えを交流し、新しい考えを取り入れながら、よりよい解答を模索していた。



(3) 成果と課題 (○：成果、●：課題)

- コーチングによる支援を取り入れることで、ミニレッスンや学び合いを取り入れた自由進度学習により、児童は文章の構成や論の展開といった説明的文章を読む視点をもって、学習課題の解決に取り組むことができた。
- 評価テストでは、学習課題⑤の正答率が低い結果となった。説明の工夫の意図や効果を読む精査・解釈の段階で、十分な理解ができていなかったことが原因だと考えられる。

4 おわりに

本研究では、ブレンディッドラーニングやピアラーニングの考え方を取り入れることで、個別のペースで学習を進める中でも、説明文を読む力を付けることを目指した。動画教材や、「助け合いと高め合い」といった手立てを用いることで、児童は、筆者の主張がどこに書いてあるのか、どのような事例を用いて説明しているのかというような文章の構成を捉える力を伸ばすことができた。

その一方で、筆者の説明の工夫の効果や意図を捉えるというような精査・解釈や読み取ったことを基に自分の考えを形成していくといった段階でつまづく児童が多く見られた。このような課題を解決するために、今後は、学習課題の内容を工夫していくことで、筆者の説明の工夫や効果を捉えられるようにしていく必要がある。また、動画教材の内容についても、知識としての説明だけでなく、説明した読み方を、実際に使ってみるような内容を取り入れると、説明文を読むことが苦手な児童も使いやすいものになると考えられる。

以上の改善点を踏まえて、児童が個別のペースで学習する中であっても、説明文を読む力を身に付けられるように、実践を続けていく。